研究課題　和歌山平野を中心とした地域所在中世史料の調査・研究

研究経費　四〇万円

研究組織

　研究代表者　　　坂本亮太（和歌山県立博物館）

　所内共同研究者　末柄豊・村井祐樹・小瀬玄士

　所外共同研究者　小橋勇介（和歌山市立博物館）・砂川佳子（和歌山県立文書館）

研究の概要

（１）課題の概要

　和歌山県における中世史料は、『和歌山県史』の刊行により、その全貌がほぼ明らかになっている。また、本研究で対象とする和歌山平野域（主に和歌山市）については、『県史』刊行後、『和歌山市史』が刊行され、『県史』未収録の史料群も『市史』により把握されている。ただし、当時においても種々の事情により十全な調査・発掘が行われたものではなく、存在は把握していながらも点数が少ないという理由で採録しなかったものや、原本調査に至らず、史料編纂所架蔵影写本に拠らざるを得なかったものも多数あった。さらに、刊行から既に四〇年以上が経過し、その間に新たに発見された史料も少なくない。  
　以上の様な状況の中で、昨年度は、新出林文書のみならず向井文書・歓喜寺文書などの既知の文書の再調査を行った。引き続き本年度も、明治・大正期に作成された影写本や、昭和以降に撮影された写真帳等、豊富な複本類を持つ史料編纂所と共同することで、当該地域所在史料の調査・研究を行いたい。

（２）研究の成果

　以下、調査・撮影を行った史料を挙げる。  
　王子神社文書（和歌山県立博物館寄託）／岡文書（同上）／柏原文書（同上）／熊野速玉大社文書（同上）／綸旨・院宣（高野山金剛峯寺所蔵）  
以上の内、柏原（かせばら）文書は『和歌山県史　中世史料一』には「西光寺文書」として収録され、本所写真帳では「柏原区有文書」（六一七一.六六－一六）として配架されている。また、「綸旨・院宣」は新出で宝簡集・続宝簡集・又続宝簡集外の金剛峯寺所蔵文書であるが、慎重な検討が必要と考えられる。いずれも今後の和歌山中世史研究における活用が望まれる。